



根浜海岸砂浜再生懇談会(第1回～第2回) 意見まとめ



懇談会意見一覧

砂浜再生にあたっての意見・要望(1/3)

分類	No.	要旨
全般	1	・観光面でも砂浜の再生をお願いしたい。
	2	・2019ラグビーW杯釜石大会 TM までに、砂浜再生を形にして欲しい。
	3	・早く砂浜を再生して欲しい。
	4	・砂浜は無理に再生せず、自然のまま任せて回復過程を観察する、という活かし方もあるのではないかな。
	5	・砂浜は自然のままに任せるのが良い。人工的に再生した砂はまた流される恐れがある。
	6	・再生する場合は、自然環境を理解して砂浜を再生することが必要である。
	7	・砂が徐々に戻ってきている。可能であれば手を付けない方が良いが、地域の人々の生活を最優先に考えるべき。
	8	・海水浴以外にも、海浜の生物、マロウド（コタマ貝）等が観光資源になる。砂浜の再生だけに頼らず、今ある資源を生かす考え方も必要と考えている。
再生希望範囲	9	・根浜海岸から片岸海岸までの、かつての砂浜2kmが元どおり再生できれば望ましい。
	10	・再生箇所は海水浴に必要な（満足できる）範囲や幅で決めればよい。
	11	・砂浜を再生する場合は、欲張らないで範囲を設定すべき。
	12	・施設の配置等を考慮すると、レストハウスやシャワーがある箱崎フィッシャリーナ側から宝来館前までの砂浜再生範囲が良い。
	13	・海水浴での利用を考えると、優先順位としては箱崎フィッシャリーナ側が高い。
	14	・養浜箇所は箱崎フィッシャリーナ横なら砂が安定するだろうし、駐車場もあるから利用面でも便利である。
	15	・根浜海岸の河口側に砂を投入すれば、フィッシャリーナ側に砂が流れていくのではないかな。
	16	・再生範囲は、最低限箱崎フィッシャリーナ～宝来館まで欲しい。
	17	・観光利用、トイレ等の施設、避難場所を考えると、砂浜を再生するなら（片岸側より）根浜海岸側が良い。
	18	・漁港側の緑地と砂浜が繋がれば行き来ができるようになり、利用面で便利になる。
	19	・根浜海岸の河口側にも砂浜が再生できれば良い。漁港側の砂浜を遊びのゾーン、河口側を自然観察ゾーンとして分け、根浜海岸内で移動が済むのであれば、観光面では利用しやすい。
	20	・箱崎フィッシャリーナから、夫婦岩（鵜住居川河口付近）の辺りまでの砂浜を再生して欲しい。
	21	・砂浜再生の規模や場所はオープンウォータースイミングなどの利用面も考慮し決めて欲しい。
	22	夫婦岩付近の捨石を砂浜にして欲しい。初心者の場合、ヨットが転覆すると立て直せないまま、浜方向に流される。硬いものにぶつかると船体が壊れる恐れがある。
23	フィッシャリーナ緑地帯の斜路部にも砂が入ると、ヨットの出し入れができる。	
再生幅	24	・現状の浜幅（10～15m程度）の倍位あると良い。現状では護岸に波が直接あたる。
	25	・海水浴を考えると現状では幅が足りない。満潮時にも10m～20mの砂浜幅が残るようにして欲しい。
	26	・砂浜の幅は、50mくらい欲しい。幅があれば一年中活用できるため、延長よりも幅を確保して欲しい。
	27	・トライアスロンは今の砂浜幅でもできる。ただ海水浴を考えると現状では幅が足りない。浜の上の方まで波が来る。
勾配	28	・砂浜の勾配は緩い方がよい。

砂浜再生にあたっての意見・要望(2/3)

分類	No.	要旨
養浜材	29	・片岸海岸、鵜住居川河口等の土砂を養浜に使ったらどうか？同じ湾の材料で、色も根浜と同じである。
	30	・片岸海岸、鵜住居川の堆積土砂など現地と同質の砂を使うのが良い。
	31	・片岸沖に砂が溜まり浅くなっているの、これを台船で浚渫して根浜へ運んだらどうか。
	32	・片岸海岸側の堆積砂や河口土砂など現地と同質の材料を利用するのが良い。
	33	・湾内の同じ砂を使うなら問題は無い。
	34	・現地と同質の砂を使って欲しい。
	35	・外部から持ってきた砂を投入すると、水質が悪化するおそれがある。
生物・動植物	36	・養浜材料は地元のものにこだわりたい。根浜の砂には雲母が入っていたり、砂鉄が多く含まれたり、砂だけでもこの地域の物語を語れる。
	37	・片岸海岸の砂浜は、自然に再生していること、また貴重な植物があるとの情報があるため、手を付けずそのままにしておいた方が良い。
	38	・片岸海岸に自然再生した砂浜は、そのまま残すのが望ましい。砂浜は「生物相のゆりかご」でもあり、いろいろな場所にあると良い。
	39	・汽水域の環境は魚が回遊する等、生物にとって貴重な環境である。
再生手法 (構造物)	40	・根浜海岸は、ヒラメが底に付きやすい場所でもある。砂浜の再生で、生物資源が復活しお互い良い結果が得られれば嬉しい。
	41	・片岸海岸側に砂が流出するのを防ぐため、また捨石が根浜側に寄るのを防ぐため、宝来館の前あたりに砂止め用の構造物が必要ではないか。
	42	・根浜海岸で養浜を行う場合は、砂が片岸海岸側に流されないよう、砂止め用の構造物が必要ではないか。
	43	・宝来館前に養浜すると砂が左右に移動するので、囲み(構造物)が必要ではないか。
	44	・沖に離岸堤が必要ではないか。
	45	・自然景観に配慮した砂浜再生を希望する。
施工条件	46	ヨット利用の面からは、突堤や離岸堤などの構造物は無い方が良い。
	47	・養殖場まで距離があり、施工時の濁りはさほど問題にならないと考える。
	48	・高田海岸の対策事例(シルトフェンス)を見る限り、施工時の濁りはそこまで心配していない。
	49	・3~6月なら養浜の施工が可能と考える。沖はホタテとカキの養殖、沿岸は定置網(6/15以降)と刺し網(宝来館前で9月まで)、ウニ、アワビ、ワカメ(3月まで)等の採取。鵜住居川でサケ放流(9月に遡上)。
	50	・サケ漁は8月末から年明け(1月末~2月上旬)まで。この期間の作業は避けて欲しい。
その他	51	・短期間で工事を終わらせて欲しい。
	52	・鵜住居川でアユ、サケの遡上が見られるようになっている。漁業上の観点でも、鵜住居川の河口閉塞が心配である。
	53	・鵜住居川、片岸川の河口閉塞の心配がある。養浜の規模や手法は両河川への影響など、全体を考慮して決める必要がある。
	54	・養浜は、まずは試験的に小規模に投入して、影響を確認してはどうか。
	55	・片岸川の河口閉塞も考慮する必要がある。
	56	・河口が砂で閉塞されれば、出水時に背後地が浸水する恐れがある。
	57	・砂浜の早期再生のためには、元どおりではなく段階的な再生でも良い。現地の砂が使えなければ他の地区の砂を使っても良い。突堤などの構造物も、技術的に必要であれば受け入れる。養浜手法は、委員会で先生方に検討してもらいたい。
58	・W杯時、世界のセレブ達がヨットで入港してくることを想定している。かつてあったポンツーン(浮棧橋)を復活させて欲しい。	

砂浜再生にあたっての意見・要望(3/3)

分類	No.	要旨
その他	59	・震災後、海から遠ざかっている子供たちが再び海に親しめるよう、早期に砂浜を再生して欲しい。
	60	・非常に困難ではあるが、漁業・観光・環境など全ての関係者が皆で考え、多様な人が必要とする大槌湾を目指し検討を行って欲しい。
	61	・砂浜再生にあたって、子供たちを関わらせるような企画が出来れば面白いと思う。
	62	・養浜と併せて、背後に鳥の住処になる松林の再生を行って欲しい。
	63	・砂浜の再生に着手する場合は、生き物に配慮して進めて欲しい。
	64	・防潮堤の前面でボルダリングができれば面白いと思う。
	65	フィッシャリーナにかつてあった浮棧橋が復活すると、フィッシャリーナの利用が増えると思う。

被災前の状況と現状について(1/2)

分類	No.	要旨
海浜地形	66	・50年前は根浜海岸の松林前に100m位の浜幅があり、勾配が緩かった。
	67	・20年以上前から根浜海岸の砂浜が痩せ、浜幅が後退していた。
	68	・砂は、根浜海岸から片岸海岸に移動していた。
	69	・片岸川河口の船だまりの航路確保のため、導流堤を設置したあと、導流堤の北側に砂が溜まった。
	70	・根浜海岸の沖は急深になっている。
	71	・片岸海岸の沖は遠浅で、砂の質は根浜と同じ。
	72	・夫婦岩の前の石(捨石)は、復旧工事に必要とすることで入れたようだが、小さい石が南に移動してきている。
	73	・夫婦岩周辺から北側は波が高い。漁港防波堤建設で波の角度が変化した。
	74	・フィッシャリーナの浚渫土砂を河口砂州に入れ松を植林した経緯がある。
	75	・根浜海岸内の砂は、河口側から漁港側に移動していたようだ。
	76	・片岸海岸に砂が付いてきており、環境的に面白い場所になっている。
77	この場所は夏場になると、湾口から湾奥に向かう東風が吹く。	
砂	78	・根浜海岸は、泳ぐと金色の平べったい砂(雲母)が体に着く、独特の砂である。
景観	79	・40年前、離岸堤設置の話もあったが、景観悪化を懸念し断念した。
海浜利用	80	・釜石市の観光客入り込み数は震災前は100万人、震災後は40~50万人で推移している。根浜海岸の海水浴客の観光客誘客への寄与は大きかった。
	81	・トライアスロン練習会は7月、オープンウォータースイミングは8月、トライアスロン大会は9月に行われる。
	82	・根浜海岸は県内随一のトライアスロンの適地である。過去に盛岡の御所湖で開催したこともあるが、水質の面から断念し、根浜になった経緯がある。
	83	・過去のトライアスロン大会は、選手が砂浜に横一列並びスタートしていた。
	84	・沖に行くと水温が低くなるため、トライアスロンのスイムコースは陸側(汀線から概ね250m程度)で設定している。
	85	・砂浜はかつてラントレーニングの場所でもあった。
	86	・片岸海岸側に、サーフィンの利用客がいる。
	87	・ヨットの利用もある。
	88	・震災前は、宝来館の企画で地引網体験を行ったことがある。
	89	・鶴住居川河口は、かつて123種類の野鳥が見られ、オールシーズン観測できるバードウォッチングスポットとして利用されていた。
	90	ヨットの練習は、箱崎漁港と室浜漁港を結ぶラインより湾奥側のエリアを、大会では、練習時より外洋側の大槌港~白浜漁港付近までを使う。

被災前の状況と現状について(2/2)

分類	No.	要旨
海浜利用	91	箱崎フィッシャリーナの緑地側の斜路をかつてヨットの出し入れに使用していた。
	92	ライフセービングの訓練は箱崎漁港～夫婦岩までの区間で行われている。
生物・動植物	93	・片岸ではマロウド（コタマ貝）がとれる。
	94	・昔は砂も柔らかかでホッキ貝がとれた。今は砂も硬く貝はとれない。
	95	・かつて根浜海岸側で見られたカニやマロウドが今は片岸海岸側で獲れる。
	96	・根浜海岸の浅瀬に生息する魚の種類が変化している。カニやタコの生息状況が影響しているようだ。
	97	・根浜海岸の背後はマツやハマボウフウが生息しており、良い環境教育のフィールドである。
	98	・震災後見られなくなったアマモが復活してきている。
	99	・震災後は松林や河口のブッシュが消失し、多様な鳥類種は見られなくなった。しかし現在でもワシ、タカ、ミサゴ等を確認している。
生物・動植物	100	・片岸海岸の陸側の旧河道は、「ミノツケ沼」と呼ばれており、ガン、カモ等水鳥の宝庫であった。
	101	・フィッシャリーナ側の山側の沼が小規模なビオトープとなっており、かつてはヘイケボタル、12～13種類のトンボが見られた。
	102	・鵜住居川は隠れたアユのメッカで、アユの釣り人が多い。
その他	103	・鵜住居川の出水時の洪水流で室浜沖の養殖筏が被害を受けた。鵜住居川河口への構造物設置を要望している。